

第6回四万十市立小中学校再編検討委員会 会議録

- 1 日 時 平成 29 年 5 月 25 日 (木)
開会：18時30分 閉会：20時00分
- 2 場 所 四万十市役所 6 階 第 1 ・ 第 2 委員会室
- 3 出席者 [委員] 庄崎郁信、黒川広美、宮崎久、上岡敬、大崎朗、刈谷隆子、岡島喜三、藏内章夫、宮下貞子、山下元一郎、網師本卓己
[事務局] 教育長 藤倉利一
学校教育課長 山崎行伸
学校教育課長補佐 竹田哲也
学校教育課管理主幹 宮崎平
学校教育課総務係長 中脇弘樹
- 4 議 事 (1) 第 5 回検討委員会の内容確認について
(2) 答申 (案) について
(3) その他
- 5 会議の要領
(1) 開会
○課長補佐 [開会を宣言]

(2) 会長あいさつ
○会長 [あいさつ]

○課長補佐
[配布資料の確認]

(3) 議事
【議事①】 第 5 回検討委員会の内容確認について
○会長
議事に入らせていただきます。議事番号 1 番、第 5 回検討委員会の内容確認について、事務局から説明をお願いします。

○総務係長

・資料1に基づき説明

○会長

質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(全員なし)

○会長

特にご意見が無いようであれば、資料1の内容は今回の答申案にも含まれていますので、次に進めさせていただきます。

【議事②】 答申（案）について

○会長

答申（案）の審議の進め方ですが、前日も審議しており、まとめるという意味も含めまして、最初から読み合わせをして、区切りごとにご意見等を伺いながら審議を進めていき、全体が終わったところでもう一度見直したいと思います。Ⅰについては省略させていただき、続いてⅡの1の（1）に移ります。前回からの修正点と合わせ、再度事務局から説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、Ⅱの1の（1）について説明]

○会長

それではⅡの1の（1）について、ご意見等ございますでしょうか。

(全員なし)

○会長

よろしいようであれば、続いてⅡの1の（2）から（3）について、事務局から説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、Ⅱの1の（2）から（3）について説明]

○会長

それではⅡの1の(2)から(3)について、ご意見等ございますでしょうか。

○網師本委員

(2)の2行目に大規模改造事業という文言が出てきますが、一般的には大規模改修事業という文言を耳にします。事業名はこれにかまわないでしょうか？

○課長

国庫補助事業では大規模改造という名前を使ったりしますが、一般的には改修という文言の方になじみがあるかもしれません。ここは訂正したいと思います。

○会長

別のところにもあったと思います。統一するというので、他にありませんか？なければ続いてⅡの2について、説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、Ⅱの2について説明]

○会長

この部分については何かありますか？無いようですので、次に行きたいと思います。次のⅡの3につきましては大幅に変わっておりますので、よく検討してください。事務局の説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、Ⅱの3について説明]

○会長

前回は、小規模校にも利点があるが、課題も多いということを盛り込んでどうかということで、今回のような形になったということです。ここについては時間をかけて審議したいと思います。ご意見等いかがでしょうか。

○委員

大体はいいんじゃないでしょうか。当を得た内容になっていると思います。

○委員

先に指摘のあった、大規模改修という表現が、後ろから5行目にも出てきています。これは改造と改修、どちらが良いのか。

○委員

どちらか決めた方がいいかもしれませんね。

○委員

何か理由はあったんでしょうけれども。

○会長

この表現については事務局にお任せしましょうか。

○総務係長

適切な方に統一させていただきたいと思います。

○課長補佐

一般的には改修なんだと思います。事業名の方もあって表記が揺れていると思うんですが、改修の方が一般的にはわかりやすいかもしれません。

○会長

このⅡの3については、今回訂正部分が追加されたことによってわかりやすく、起承転結の流れが整理されたような形になりましたが、ご意見はよろしいですか？何かあればまた後程お願いします。続いて、Ⅲの1から3までを審議します。説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、Ⅲの1から3について説明]

○会長

Ⅱの3の学校再編の必要性をうけて、望ましい教育環境についてというページなんですけど、何か過不足はありますか？

○委員

以前に郵送された資料、会議録の中ではスクールバスを導入するという表現があったと思うが、ここでは検討を行うという表現になっている。導入するという表現はできないか。検討では弱いと思うのだが。

○会長

Vの付帯意見の中には「スクールバス等を導入すること」と表現されている。

○委員

統合が喫緊になっているような学校においては、スクールバスというほどのものは必要ない。一人か二人乗ればよい。そういうこともあって、「スクールバス等」としているのだろう。

○委員

会の前にも話したのですが、スクールバスとは言っても、いろいろな地区を回れば1台のバスではまかないきれなくなる。小さい車両でよいのではないか。

○委員

小さい車両でよい。

○会長

このスクールバス等の導入の部分について、答申書の書き方としてはどうでしょう。

○委員

検討では表現が弱い。Vの付帯意見にも「導入すること」と表現してあるし、これで納得しないと。

○委員

付帯意見に書けるのであれば、こちらでも同じ表現をしなければならない。「検討」では実効性に疑問が生じる。

○会長

スクールバスを導入するわけですから、ここは「スクールバス等を導入し、」として、その後の通学時間の記載につなげるべきでしょうか。他に検討する事項もありますが。

○委員

ダイヤ等、検討しなければいけないこともある。台数も1台2台では済まない。「方法については検討する」としてはどうか。富山でも竹屋敷、三ツ又、大西ノ川と入れれば通学時間は大変なことになる。

○会長

「スクールバスを導入し、その実施においては十分に検討すること」という形でしょうか。

○委員

そうですね。

○委員

ある程度のところまでは出てきてもらう必要はある。家の前で乗せるということではない。

○会長

ご意見はいかがでしょうか。

○委員

前回、「検討する」では表現が弱いという話がありましたので、はっきりと「スクールバスを導入し、その実施方法については十分に検討する。その場合の通学時間の目安はおおむね1時間以内とする。」としたほうが良いと思います。

○委員

いいですね。

○会長

それでは、今の文言で。

○委員

他の、望ましい教育環境の部分などはなかなか良いと思います。地区等で説明するときにも十分なものになっていると思います。

○会長

それでは、「スクールバス等を導入し、その実施方法については十分に検討する。その場合の通学時間の目安はおおむね1時間以内とする。」という文言でよろしいですか？

—各委員同意の声—

○会長

他に、上の方のところでは何かありませんか？無いようですが、また何かあれば後でご意見ください。それではⅣの1について審議します。説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、IVの1について説明]

○会長

この部分がメインになるかと思いますが、なお確認のために、今日は確認資料1と確認資料2を再度用意いたしましたので、確認してください。

引き続き、IVの2まで審議しますので、説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、IVの2について説明]

○会長

言葉遣いなんですけど、2の(2)の小学校について、「学級の複式化が中学校を先行する」というところについて、「中学校に」が良いのかどうか。

○委員

中学校より先に小学校が複式化するということでしょうか。今現実に先行しているんですか？確認資料2を見ると、中学校よりは多いようですが。

○委員

これは逆にして、「学級の複式化が中学校で先行する現状を鑑み、中学校からの実施を基本とするが、特に小学校の小規模校については、保護者からの要望を」としてはどうか。

○委員

小学校と中学校、どちらが先行しているんですか。

○委員

小学校ではないでしょうか。

○会長

先行というのがわかりにくいですが、中学校の複式化が先行してないと、中学校から先という結論にはならないと。

○委員

中学校を先に実施するのは、2回の統合を経験させないためですよね。複式化の進み方とは関係なく。

○会長

中学校の複式化のほうが深刻なんですか。教科外とかいろいろな面で。

○委員

教育的な影響は大きいと。そうしたらこの、「先行する」のところは別に要らないんじゃないですか。「中学校からの実施を基本とするけども、極小規模校については、保護者からの要望に応じて検討する」といった形で。

○会長

ここで言いたいのは、中学校からやるよということと、小学校も状況に応じて先にやるべきところは先にやると。

○委員

先にいただいた学級編成の推移表で、小学校の複式学級数は29年度は13学級が34年度では17学級に、中学校では29年度は4学級が34年度では5学級に、まあ中学校は学級数が少ないですからあれですが、小学校の方が増えていますね。

○委員

IVの1の再編計画のとおりでいけば、2回統合を経験することにはならないではないか。

○会長

小学校については、回数についてでなく、時期について話しているところですが、「中学校を先に再編するが、小学校でも保護者から早くやってほしいという要望があれば再編する」ということをここに入れていきたい。

○委員

時期のところにですか。付帯意見のところではどうか。

○会長

付帯意見については「小中学校それぞれにおいて2度以上の再編を経験しない」とあります。具体的な方策ですから、時期についてどうするという事は、先の部分になる。

○委員

小学校の中に中学校の文言が出てこなくても、中学校を先にやるのではなく、中学校を平成33年4月を目標に取り組んで、小学校は喫緊のところからどんどんやっていくと、本来なら。だから、小学校の中に「中学校の先行実施を基本とする」という文言は必要ないかなと。

小学校はさしあたってところからやっていくと。

○委員

小学校、中学校とくくなくとも、文章を一つで。(2)の時期等は平成33年4月を最初に出して、そのあとに、「小学校の極小規模校については」といった文章でどうか。

○会長

最初に中学校という言葉も入れない訳ですか。

○委員

入れない形で。(1)の手順のところから中学校から先行実施すると書いてあるわけですから。(2)については「時期等」としてあるわけですから。

○委員

ここは小学校、中学校を分けずに、純粋に時期等について、ということですか。

○会長

よろしいですか、(1)の手順のところは「中学校においては、特に教員配置や云々、中学校から先行実施する。」とし、(2)の時期等については小学校、中学校は無しにして、「学校施設の状況や再編前の生徒の交流期間等を考慮し、平成33年4月を目標に取り組む。」とし、その後に「小学校について、緊急性のある所については、随時取り組む」という内容ですか。ここを委員の文言で。

○委員

文言にしますか？

○会長

それで行きたいと思います。(2)の時期等の、「学校施設の状況～目標に取り組む。」まではそのままいて、その後に小学校についての文言を。

○委員

すいません、少し戻りますが、(1)の手順のところから、「児童生徒が再編を繰り返すことのないよう」というのがありますが、初めて読む人は児童生徒が再編を繰り返すという点がわかりにくいと思います。うまく言えませんが、「統合を経験することがないよう」といった表現になるようにしては。

○会長

付帯意見の中では、「2度以上の再編を経験しないよう」となっています。

○委員

児童生徒を主語にしたら、「再編を繰り返し経験することのないよう」と書けば、述語が整う。

○会長

委員の案では、「児童生徒が再編を繰り返し経験することのないよう、中学校から先行実施する。」ということですね。

○委員

「中学校から先行実施する」という文言も不要ではないか。その後に「平成 33 年 4 月」という目標を書いている。

○会長

平成 33 年 4 月はここで初めて出てきますよね。先にⅣの 1 で具体的な配置計画があり、2 で手順と時期として平成 33 年 4 月を目標としている。ここに 3 として、小学校については状況に応じてやっていきますねと。三段階で。

○委員

「極小規模校については、保護者からの要望など必要に応じ検討する」とありますが、例えば川登小が個別に統合したいというような話が出た時は、利岡小を飛び越えて、この配置計画の中村小に統合する形になるのでしょうか。

○委員

小学校で 2 回経験させないということであるから、そうでしょう。

○委員

保護者が希望するのであれば。

○委員

ここは文言を変えてもいいかもしれないが、地区に説明する文章でもある。このままのほうがわかりやすいのではないか。2 度繰り返させない、一度で済むというように。表現については法律でないのだからそれほど難しく考える必要もないのではないか。

○会長

「再編を繰り返す」という文言は入れなければいけないのでしょうか。中学校から先行実施する理由を前に置いておいて。

○委員

小学校の子どもたちが再編を繰り返さないように中学校から先行実施するわけですから、いいんじゃないでしょうか。

○会長

「中学校においては特に教員配置や部活動など、課題が顕在化していることを鑑み、先行実施する」という感じではどうか。「2回繰り返す」といれるとややこしくなる気もするが。

○委員

これまで統合を2回経験させないということを何度も話してきたし、入れておいた方がいいと思う。

○委員

地域の人から聞かれたときに、このためにこうやるんだ、こう書いてあると説明できる。

○会長

中学校を先にやれば、中学校で2回統合を経験するというはまずありえないですね。

中学校を先にやれば、小学校で経験したとしても一回で済む。「児童生徒が再編を2度体験することがないよう」にするのはどうか。

○委員

生徒も、児童も無いですね。中学校を先にやれば。

○委員

最初はその話で行っていたと思うんですが、確か委員の方から、34年度で9名しかいない小学校があるということで、中学校を先行するという話だったけど、小学校でより喫緊の状況の学校が出て来るんじゃないかという話が出て、小学校はそこを記載する必要があるということで、中学校先行という話から、緊急のところは小学校もやっ払いこうという話になってきたと。

○委員

そこで、(2)の小学校の部分に赤字で追加部分が出てきた。

○会長

Ⅳの2の手順、時期の中で、2番目の時期等については平成33年4月を目標に取り組みます、3番目として小学校について、こういう状況があれば、そこについて取組みます、という3段階にしてみれば。

○委員

その場合、2回経験することも可能性としては出てくると。

○会長

それは、先ほど委員の話にもあった、統合の要望があった小学校が、近くの小学校と統合をした場合にはあり得る話だが、配置計画通りに統合した場合には1回で済む。

○委員

隣は無しですね。

○委員

配置計画の統合先に統合しないといけないですね。

○会長

「児童生徒が再編を2度経験することが無いよう、中学校から先行実施する」とするのがいいような気がします。事務局よろしいですか？

時期等については、みなさんのお話からすると、小学校、中学校それぞれわかりやすく、小学校についてはこう、中学校についてはこうというふうにと入れた方が良さそうですので、小学校の赤字訂正部分について検討を。

○委員

小学校の児童が減少し、片手の指で数えられるようになるようなことが、中学校の目標の平成33年より先にあるかもしれない。

○会長

小学校の今回追加部分の「学級の複式化が中学校を先行する現状を鑑み」は当初話していた通りわかりにくい部分であるので、表現を検討しましょう。

○委員

最終的には、Ⅳの1のように統合しなければいけないのですから、その過程であろうとも、地元には一回しか統合しないということをもっていけばいい。父兄は早くしてもらいたい

という。学校がなくなると寂しいという地域の意見もあるが、子どもを持つ親の意見も大事ではないか。

○会長

そこは、子どもが中心ですから。ただ、答申の流れとしては、再編の手順があつて時期があつてというところまでは踏まえておかないと。だから小学校の部分、「中学校からの実施を基本とするが」の後、「特に極小規模校については」までの部分をすっきりさせればいいだけかと思います。このままでもわかるのですが、わかりにくいところもある。

○委員

そこは委員会が説明をするだろう。あまりわかりやすくするとかえってわからないかもしれない。

○会長

要は児童数の減少が著しいとか、そういったことですよね。

○委員

「児童数の減少が著しい場合については、保護者からの要望など必要に応じ検討するなど」かどうか。

○委員

通学手段さえ考えてあげればすぐにでも要望が来ると思う。

○委員

先ほど会長が言われたように「中学校からの実施を基本とするが、児童の減少が著しい場合については、保護者からの要望など必要に応じ検討するなど、総合的に判断しながら取り組む。」でどうでしょうか。

○会長

文章になりましたね。今のでいかがでしょうか。事務局もよろしいですね。その後の部分、中学校についてはこのままで残すことでよろしいでしょうか？

—各委員同意の声—

○会長

それではV付帯意見の審議に入ります。事務局の説明をお願いします。

○総務係長

〔資料2、Vについて説明〕

○会長

ただいま説明のありました付帯意見の各項目についてはいかがでしょうか。今までに出てきた内容は網羅されているように思いますが。

○委員

これ以上のことは出てきてませんので、この内容ですね。

○委員

そうですね。まとめてくれていると思います。

○会長

わかりました。それでは今まで逐条的に見てまいりましたが、なお全体を通して何か意見がある方はおられますでしょうか。

○委員

Ⅱの3の学校再編の必要性の中で、2行目の最後が「予想されている」という表現になっているが、「予想」では軽い。小学校は34年度、中学校は40年度まで児童生徒数を調べているので、「推計」とか「推定」のような表現としてはどうか。

○会長

「推定」でしょうか。データに基づいているので、そういった表現がいいでしょうね。他に意見がある方はおられますでしょうか。無いようであれば、今日の修正した内容で、答申書を作成することといたします。よろしいでしょうか。

—各委員同意の声—

○会長

その他、細かい字句の修正につきましては、会長・事務局に一任いただきたいと思います。答申書が出来上がりましたら、皆様に送付させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

—各委員同意の声—

○会長

答申の方法についてはどうでしょうか。事務局の方で何か案はありますか。

○総務係長

それでは事務局の方で考えております手続き案について申し上げます。一般的な方式にならない、答申式を開催して、検討委員会から教育長に答申書を手交していただきたいと考えております。ただ、本委員会は、関係するみなさまから広く意見を聴くため、全15人と比較的大きい委員会構成とさせていただいているところ、ご多忙であられる委員の皆様全員にご出席いただくのも恐縮でございますので、会長・副会長の2名に代表してご出席いただく形でどうかと考えておりますが、いかがでしょうか。

—異議なしの声—

○会長

異議なしということですので、今の事務局提案の方法で答申を行います。

○総務係長

補足をいたします。答申書の構成でございますが、本日の資料2の構成を主な内容とし、これに会長が作成するかがみ文を付ける形になります。また、答申書には参考資料として、これまでの審議経過、会議録、委員名簿を添付させていただきますので、ご了承ください。

【議事③】その他について

○会長

はい。それでは議事3、その他に移りますが、何かございますでしょうか。

○委員

学校再編と直接関係はありませんが、私の集落は今子どもがおらず、他集落の児童が来て敬老会などをやってくれます。地域の方は自分の孫のように喜んでくれます。こういうことはいいことですので、私も毎年小学校に今年もよろしくとあいさつに行っているところで

○会長

他に何かございますでしょうか。無ければ今日の議事は終了とさせていただきます。長期間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。事務局の方に戻します。

(4) 事務連絡

○総務係長

お疲れさまでした。次第では事務連絡となっておりますが、本日事務局の方からは事務連絡はありません。答申書が作成されましたら、送付させていただきたいと思います。以上です。

(5) 閉会

○教育長

閉会のご挨拶を申し上げたいと思います。今日で6回目、しかも夜間にわたり、熱心にかつ慎重にご審議いただき、本当にありがとうございました。このあと、教育委員会でこの答申をいただきまして、議論のうえ、今後の取組の方向について、具体的に作っていきたいと思います。

どの地域にいつご説明に行くかといった日程については決定しておりませんが、それも含めて教育委員会で議論していきたいというふうに思っているところでございます。みなさんからいただいた答申書を基に、できるだけ早く取り掛かりたいと思っております。

本当に、本市の子どもたちの教育環境がより良い方向に向かうよう、熱心にご審議いただき、本当にありがとうございました。今後ともご指導・ご意見いただけましたら、我々のこれからの取組の参考にさせていただきますので、気軽に教育委員会に寄っていただいて、ご意見いただけますよう、よろしく申し上げます。

本当に長い間ありがとうございました。